

奥多摩町役場庁舎建設基本構想（案）のパブリックコメント一覧

- 1 募集期間 令和4年10月3日（月）から令和4年10月14日（金）まで
- 2 提出意見 75項目（41件） ※うち、メール38件、紙3件（子家セン2件、郵送1件）、中学校0件（全校生徒に意見募集配布）
- 3 意見要旨 ※本表の意見内容については、類似意見の集約や文言整理をしておりますのでご了承下さい。

該当箇所（区分）	意見内容（意見要旨）
序章	
はじめに	役場庁舎の建て替えは、私達町民に具体的にどのようなメリットがあるのでしょうか。
	震災対策としては、古里出張所にバックアップ機能を持たせる方が、住民負担の軽減やコスト縮減等の面で得策ではありませんか。
	さまざまな立場の人に意見を聞くというからには、ぜひ障害者の方、全世代の方、満遍なく検討委員会に参加できるようにして頂きたいです。
1. 基本構想の位置づけ	（意見なし）
第1章 庁舎建設の基本構想	
1. 庁舎耐震診断	（意見なし）
2. 庁内における検討状況等の経緯	（意見なし）
第2章 庁舎建設の基本方針	
1. 基本理念	有事に備えた庁舎である一方で、普段は奥多摩の魅力を十二分に発信できる庁舎として整備してほしい。
	この場所を訪れたことがない人たちにも、奥多摩の魅力が届くような庁舎であることを願っています。
	建て替えという視点ではなく、町をどのような町にしていけるか、しっかりと描かれたランドデザインの中の基軸となる庁舎建設であって欲しい。
	町づくりという確たる観点で新庁舎建設を考えていただき、無駄で使い勝手の悪い雑多な町にならないように、コンパクトで生き生き暮らせる町にしていきたい。
	五十年の計を実行するには、一年計画を遅らせる勇気を持っていただきたい。
	巨額の予算を使用して建設するので、建設以外のやり方や前提条件から話を進めた方がいいと思います。
	これから何十年も使用していく事になるかもしれない、大切な話です。時間をかけるべきです。
	庁舎ありきで考えるのではなく、まず、どのような「災害対策」や「防災システム」を構築するかを想定した上で、新庁舎にどのような機能を盛り込むかという発想が必要なのではないでしょうか。新庁舎建設の前に、まず「防災対策」に対する基本構想をお示しいただきたい。
	防災についての重要性に賛同します。その上位にくる奥多摩町としての理念があると良いと感じました。例えば、奥多摩町の地域の人や森林、知恵を生かした人の育成を伴う防災…といったようなもの。受け身の形で救助を待つのではなく、前もって町民が自律して活動できる備えを作り出せる庁舎になってほしいと思います。
	高齢化による人口減少の中での10年、20年後を視野に入れたまちづくり、その拠点となる新庁舎の機能強化、心構えが理念の中に欲しい。
	防災は大切なことですが、基本理念が防災中心では発想が貧しくなります。大勢の人からもっと意見を聞き、奥多摩の自然文化を象徴する理念を持つべきです。基本設計においては理念がいちばん大切です。奥多摩駅周辺の再開発も視野に考えて頂きたいと思います。
2. 基本方針	「防災拠点の機能」として、より具体的な被害想定をしてほしい。
	奥多摩を訪れる観光客や移住者などにも開かれた庁舎になるといい。
	「機能的で働きやすい」だけでなく、「働きたくないー奥多摩の」庁舎を考えてほしい。
	奥多摩の抱える人口減の問題や、森林、観光などに焦点をあてたものがあってもよい。
	基本方針4「人と環境にやさしい庁舎」において、基本方針2とは異なる観点で「人にやさしい」のかわからない。
	庁舎内にリモート環境や、ネット配信の小さなブースを設けるといったようなこと。駅からのアクセスが良い場所でしたら、町民の方々、町内企業の方々にとって利益は大きいように感じます。
	町民はもちろん、来訪される方々、役場職員の皆様が生きがい、やりがいを持って安心安全に生活していくためには関係人口を増やし町を活性化し続けていく必要がある。一方で、観光以外の方が町に来ようと思っても一時的に滞在し、町を知り、人と繋がる場所がないため、町外、都心部の方にとっては踏み込むのに躊躇する地域となっています。新庁舎の建設にあたっては、町の持続性を高めるための拠点として、都の密解消を加速する受け皿の地域として計画を具体化していただきたい。基本方針に「関係人口を増やす拠点」といった方針、方向性をぜひ追加していただきたい。
	町の施策如何で関係人口を増やしていくことが可能なのではないのでしょうか。新庁舎は、奥多摩町とのゆるやかな関係を保つための拠点となり得ます。そのような町外にも開かれた庁舎であってほしいと思いますし、基本方針には、町外へ向けた視点もとり入れてほしい。
	ぜひ「意匠」「デザイン」について、深い知見を持つ人材を庁舎建設プロジェクトの中核に配置していただき、意匠についてのコンセプトや方向性を明確にいただき、町民に未永く愛される庁舎としていただければと思います。

	基本方針1と3の防災や職員の環境改善は大きく掲げなくても、今では当たり前の事と認識します。ただ、奥多摩という個別課題（高齢化、観光立町、森林に囲まれた町等）に対して考え得る対策は必要と思います。
	新庁舎建設が町民にとってどのようなメリットがあるのか？
	基本方針1と2を入れ替えた方が理解しやすい。
	町民に親しまれ、利用しやすい庁舎とは具体的にどのようなイメージかお尋ねしたい。
	庁内関係部署で協議で出されていた現庁舎の問題点で町民サービスの点でどのような問題点があったか示してほしい。その分析が基本方針、基本機能に繋がると思う。
	文章が抽象的な気がしました。もう少し具体的だとイメージしやすいです。
	基本構想案の（基本方針）1～4だけでは豊かな町の未来が見えてこないで、「5」として「観光地のシンボルとなる庁舎」を提案します。
3. 基本機能	奥多摩ならではの働き方（執務機能や窓口機能）を基本に、奥多摩の魅力を発信、醸成する文化交流機能や議会機能を備えてほしい。
	「強固なセキュリティ対策」とは、庁舎建て替わりに伴って、ハードウェアだけでなくソフトウェアに関しても最新設備に取り換える…という認識でよろしいですか。
	基本的に賛同します。子どもが来やすい、来たくする庁舎にしていきたい。子ども目線で使いやすさも検討していただきたい。観光地である奥多摩は遊びのプロである子どものアイデアをどんどん入れていただきたい。子どもの笑い声が聞こえる、明るい庁舎が希望です。
	文化・交流機能の部分の充実を期待する。子ども、高齢者、関係人口、観光客等全ての人が気軽に集える場所やギャラリーやブックカフェ等が併設していれば、お出かけの場所として新庁舎も選択肢に入るのではと思います。
	今後、さまざまな発信をオンラインと対面両方で行って頂きたい。議会傍聴などは、オンラインでもできますのでそのようなシステムを導入する設計をお願いしたいです。
	バリアフリーについては、町内に住む障害者の状況を鑑み、意見を聞き入れて頂きたいです。
	文化・交流機能と便利機能、議会機能の議場は重複が発生しそうな構想ではあるが、どちらも兼ね備える庁舎方針という理解で相違ないか。
	基本機能のなかに「観光情報を発信するスペース」とありますが、それなら奥多摩駅前に観光案内所があるので十分なのではと思います。
	奥多摩駅前に建つなら、例えば1階にテナントを入れるなど、商業的にも有用な使われ方がされると良いなと思いました。
第3章 庁舎建設候補地及び規模	
1. 庁舎建設候補地の位置	小学校を統合した上で、使われなくなる校舎を、新庁舎として生まれ変わらせるというのはいかがでしょうか。費用もおさえることで、災害対策や他の諸課題に財源を回すこともできそうです。
	新庁舎は氷川地区で良いと考えますが、旧庁舎は新庁舎の建設後取り壊すのでしょうか。
	奥多摩町の顔である駅周辺の活性化を促す点で候補地で良いかと思います。古里等他地域を推す声も聞くので、もう少し町民の声を聴く機会が必要かと思います。また、現候補地の問題点として、坂や踏切付近の狭い道等、検討が必要かと思います。
	候補地については、通信状況も重要かと思います。
	氷川地区での建設自体については、面積や利便性の観点から異論はない。同時に庁舎への通路建設もJRと協議の上で検討していただきたい。
	氷川地区候補地について、基本構想案、そして奥多摩地域を見回した上でこちらの候補地が最有力と判断します。その上で次にあげる内容を早期に検討していただきたい。JRの踏切から先の土地の換地はできるか。また、新庁舎と新駅舎共同事業はできるか。
	候補地が奥多摩駅周辺ばかりですが、他の駅の周辺も十分に検討されたのでしょうか。
	新庁舎建設用地「氷川200番地-6」ここが最適地だと思います。
	庁舎建設の場所は、出来れば奥多摩駅の駅前がよい。
2. 庁舎建設候補地の選定経緯	ほぼ一択になるような候補地選定及び選定基準は望ましくない。
3. 建設地の選定基準	（意見なし）
4. 庁舎建設候補地の選定（比較検討）	建設候補地の比較検討に旧古里地区が皆無なのはなぜですか。先に候補地ありきなのでは。
	候補地ごとの予算が出ていない。
5. 建設候補地ごとのメリット・デメリット	今回の候補4カ所のうち、3カ所は「土砂災害警戒地域」とされています。「防災拠点」として選べる場所は①氷川しかないように取れます。奥多摩駅周辺だけでなく、他の地域にもポテンシャルがあるように感じますが、如何でしょうか。
6. 建設地の選定方針	（意見なし）
第4章 庁舎の規模	
1. 基本指標	町の人口減少を考慮し、職員数の予想を今より少なく見積もるべきではないでしょうか。
	議員定数が維持される背景を教えてください。

	人口減少速度を緩めるとした人口想定数の算出根拠を伺いたい。
	今後の少子高齢化及び人口減少を想定される中で、職員数を維持し続けるというのは非現実的なように感じます。定型化、簡易化できる業務はあるのではないのでしょうか。
	各課全てで業務量が逼迫しているのは想定しづらいのですが、現業務の棚卸と想定業務見立てを言語化した上で必要な業務の切り分けはできないのでしょうか。例えば、理事者の役柄など、正直町民視点では不透明にも関わらず換算係数が1.0も存在する意義がわかりません。
	個室などは職員や町民の区別をせず、必要な時に利用できるオープンな場所を増設すべきではないでしょうか。
	「地方分権の流れ」による、新規業務と、それぞれの作業工数（人月）を列挙していただけないでしょうか。
	「近年多発する自然災害」が発生した場合、どんな業務が発生するのか、またその作業工数（人月）の見積もりしていただけないでしょうか。その業務が一時的なものであれば、外注や委託などで対処できないか検討していただけないでしょうか。
	庁舎が完成する予定の令和8年も、現在と同様に「コロナウイルス感染症対策の対応」があると予想されていますか。
2. 新庁舎における部署の配置	都の施設が入った合同庁舎型も一考していただきたいです。町所有空き建物の活用など含めて、大きな箱物よりシンプルでなおかつ憩える町役場を工夫してほしいと思います。憩いといえば、おしゃれなカフェと奥多摩らしい植物を使った手入れのされた植え込みがあるスペースなどもあったらいいと思います。
3. 新庁舎の規模算定	議会、書庫の面積が広すぎる。
4. 新庁舎に必要とされる規模	庁舎建物は出来れば10階建てにしたい。そうなれば、住民は1か所に行けば全ての用事は済ませる。
第5章 庁舎建設の事業計画	
1. 庁舎建設整備事業のスケジュール	新庁舎建設については、町の過疎化抑制や町外への通勤・通学者の定住など、町民が住み続けたいものになるのに役立つよう、時間をかけ適切な手順で取り組んでいただきたい。
	基本構想や基本理念といった計画の根幹にもう少し時間を割けないものかと思います。
	金額としていくらかかる見積りですか。そして、それは妥当ですか。
	PPP・PFI手法を取り入れ公募型にする事は再度ご検討頂けませんか。
	どうぞよろしくお願いたします。
	外部の知見を取り入れられるように、公募を提案します。公募によって、町の外から見た奥多摩像も知ることができると思います。庁舎設計の公募を検討してください。
	新庁舎は、今後20年、30年と長い期間使われるものです。新庁舎を使用する当事者である現在の子どもの意見も積極的に取り上げるべきだと思います。「町民に親しまれ、利用しやすい庁舎」を目指すのであれば、もっと町民の声を拾う工夫が必要だと思います。
	町の一大事業である新庁舎建設業者の選定に関しては透明性を持って当たってほしいと思います。また、設計については、町内外から広く公募することも一案ではないかと思います。
	公募方式を取り入れて、奥多摩らしい魅力的な庁舎になることを期待したいと思います。
	必要予算や受託企業の選定等は基本構想や基本計画で行われるものなのか。また、進捗について適宜このようなパブリックコメントの機会は提供されるのか。
	観光資源となり得る庁舎建設は相当に練りこんだ設計が必要です。公募により多くの知恵と提案を集積できることを望みます。